■■■

□口繪原色版はワツトマン四ッ切にして、日本水彩畫會研究所に於ける習作に御座候

□寫眞版『相思樹』は四ッ切『盛夏』は二ッ切、『ウエニス』の夏は四ッ切より稍小なるものに候

□次號には石川欽一郎氏の習作『臺灣人の顔』、并びに眞野紀太郎氏の『初秋の花』の原色版、及大橋正堯氏の『榛名湖』の石版、他に寫眞版として太平洋畫會出品の水彩畫兩三點を出すべく候

□記事には小島烏水氏の『最新水彩畫法序文』、大下氏の『靜物寫生の話』アルフレツドハルソンス氏の『日本雜觀』、其他にして小島氏の『ラスキン山岳論』の續稿は十月號より必ず登載可致候

近事

▲日本水彩畫會研究所六月例會は二十七日開會午前眞野講師の透視畫法講話、午後出品二百餘點の水彩畫に對する河合、岡、丸山、永地、大下諸氏の批評あり、今回は一般の成績殊によろしく、相田寅彦氏の靜物、並に並木富太郎氏の風景は賞を得たり。なほ、デツサンのコンクールは、一等赤城泰舒氏、二等水野以文氏なりし。同茶話會の席にて丸山氏は、信州岩菅山麓高原の風景を紹介されたり、同地には溫泉もあり、宿料も低廉、澁溫泉場より僅かに山道二里半、交通も不便にあらず、沼澤あり深林ありて、寫生の材料は極めて豐富なりといふ。

紹介

◎夏休練習帖　尋常小學第一學年より六學年迄　菊判六十餘頁、卷頭に夏休みの心得あり、次には一面に學力に應じてあらゆる學科の練習に供し、他の一面には日誌を記するやうになり居れば、兒童をして暑中休暇を無益に費消せしめず日々の練習を怠りなく行はしめんには、此書の如きは缺くべからざるものならん（一部十錢、神田區表神保町同文館發行）

◎東洋藝術資料　日本美術社に於て發行の企あるもの、內容の詳細は次號に發表すべし。

問に答ふ

□一　獨りで研究して出來たものを先生の處へ持參して見て貰ふのと、研究所へ入るのと何れが早く上達しますか二　洋畫の一通りを研究する順序、初めは何終りは何を習つたら、畫道を一通研究したと言ふことが出來ますか三　青梅に於ける講習會の記事は『みづゑ』何號にありや（日本橋和輝生）◎一　獨習は萬止むを得ざる人の取るべき手段なり、研究所に於て正則の教育を受くるに如かず、其遲速の差の如き到底比較にならず二　鉛筆若くは木炭が始めなり、油繪水彩パステル等が出來たら一通りの技術は修めたりといふを得べし三　『みづゑ』十七十八等にあり、何れも本會には品切■一　『みづゑ』五十號の『畫室のうち』の老人其他の人の名を問ふ二　同三十八號林威三氏筆の風景は何處なりや三　洋畫、に關する書物は研究者として是非讀まればならぬものにや（鉛筆スケッチ生）◎一　老人は鈴木氏、青年は森島氏、婦人は竹內